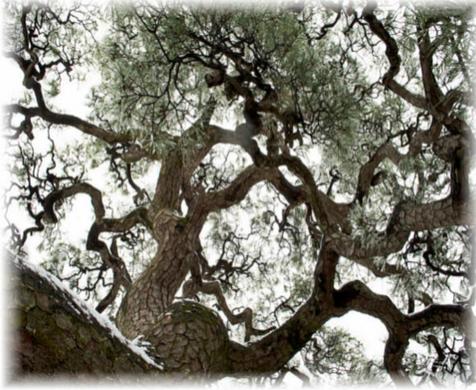


# 専教寺報

浄土真宗本願寺派 一乗山 専教寺  
〒714-1201 岡山県小田郡矢掛町矢掛2033  
TEL. 0866-82-0488  
URL. <https://www.senkyoji.com/>  
E-Mail. [senkyoji@senkyoji.com](mailto:senkyoji@senkyoji.com)

題字 大橋曾水



## ご挨拶

住職 釋 龍生

新年あけましておめで  
とうございます  
今年もよろしくお願  
い  
申し上げます

去年は、世界のあら  
ゆるところで争いの火  
種が絶えない、そんな  
年だった。ロシアによ  
るウクライナ侵攻は、  
今年で二年に及んで継  
続され、終息する気配  
すらない。イスラエル  
とパレスチナ自治区・  
イスラム組織ハマスの  
紛争は、今もなお深い  
傷を刻み続けている。

「本願寺新報」で、  
戦場カメラマンの渡部

陽一氏の、築地本願寺  
での講演の記事を読ん  
だ。渡部氏は、今日、  
今、この瞬間も世界中  
で続いているたくさん  
の戦争や紛争で、一番  
の犠牲になるのは子供  
達だという。交戦する  
それぞれの国や組織が、  
戦争や紛争に勝利する  
ために、まず行うこと  
は、敵対国や敵対組織  
の支配地域へのインフ  
ラの破壊だという。

インフラが破壊され  
て、機能しなくなると、  
一般市民や子供などの  
弱者は、丸裸で寒空の  
下に投げ出されるよう  
な状態となる。それは  
同時に、助かる命も助  
からず、ただ死を待つ  
だけの状態、言わば罪  
なき命に死刑宣告をし  
ている状況だといって  
も過言ではない。事実、  
大多数の子供の虐殺や、  
弱者の限界を超えた困  
窮の状況など、目や耳  
を覆いたくなるような  
ニュースが、昼夜を問  
わずひっきりなしにメ  
ディアを通して流され  
た。そんな印象の一年  
だった。

先の「本願寺新報」  
の同号に、雑誌「御堂  
さん」に、二十五年前  
に特集された記事につ  
いてのコラムを読んだ。  
それは在家報恩講を伝  
える記事で、大田ひろ  
さんという方が、阿弥  
陀さまのこと、世間の  
ことを、自分の思いに  
絡めながら語る、とい

うものである。

大田さんは、阿弥陀さまへの想いを、

こんな、どないもならんわがまま婆あを引き受けて必ず救うとおっしゃるんやから、せめて万分の一でもご恩報謝させてもらわにゃあ。

と味われる。そして世間のことを、

乱れきった今の社会で不足しているのは、ただ手を合わすこと。そして同じ方向、仏さまの方へ向くこと。みんな自分本位の勝手な方に向いたりから対立したり争ったりするんではよが。

と。さらに、互いに背を向けていたら、相手の気持ちかわからないし、自分もわから

なくなる。互いに向き合っ

て話すのもいいが、同じ家族で考え方も違うし、我を張りおうて言い争いもする。仏さんの方へ向いとつたら、それぞれ思いの違う者同士が一つになれる。お慈悲さんの中ではみんな兄弟、これが在家報恩講のころではないがけ。

と。

私たちは、誰一人として同じではない。誰しもが唯一無二の存在であり、それぞれがともに輝き合う存在である。しかしそれぞれへの考え方や、世の中に身を置く立場の違いによつては、対立したり争いが起こったりする。この世の中を生き抜くには、それぞれの国や組織

の考え方や文化、価値観

の誇示、そして国益の保持が必要なのかしれない。しかし欲をどこまでも追求しても、たどり着くその先に真実などない。むしろ欲を追求すればするほど、どんどん真実を求め、道から外れていくだけである。この世の中で、時が経つにつれて、おざなりになっているものを、先の大田さんの言葉が思い出させてくれる。阿弥陀さまに手を合わせる、その時は皆、阿弥陀さまに向かつて、同じ方向を向いている。誰もが唯一

の存在であり、それ故にそれぞれに違いはあれども、手を合わせる時は皆、同じ方向を向いて、ともにお念仏をいただく。

私たちは、煩惱具足の

凡夫ゆえ、時の経過の中で、どうしてもおろそかにしてしまう阿弥陀さまのお慈悲への想い。その御手に包まれて、常に願われて人生を歩んでいることを、あらためて思い起こさなければならぬ。

阿弥陀さまから届けられる大切なものを見つけて、互いに一つとなつて、阿弥陀さまのお慈悲に、二心なく素直にお念仏をいただく、今年はその一年になればよい。



挿絵 内村 壽美子

## 坊守

### 佐々木 ひろみ

あけましておめでとうございます  
昨年は大変お世話になりました  
本年もよろしくお願いいたします

昨年は、はっきりコロナ禍が明けた、とは言いつ切れませんが、少しずつ日常が戻ってきました。専教寺でも、三年ぶりに永代経法要、報恩講を行うことができました。この数年でできなかったことが少しずつできるようになり、当たり前だった日々を取り戻し始めた感じがしています。先日、我が家でも、当たり前前の尊さを感じたできごとがあり

ました。

うちには、十歳になる犬（名前はネオ）がいます。人が大好きで、お客さんが来られると、喜んで部屋から出てきます。犬が苦手な方には申し訳ないのですが、門信徒で大好きな方々には、かわいがっていたでいています。私が仕事から帰ると、毎日、玄関まで迎えに来てくれます。ところが、先日、三日連続で、出迎えてくれなかったのです。部屋まで行くと、立とうとしても足が踏ん張れずに、体を起こすことができないうのです。おかしいな、でも年を取ってきたのかな、と思っているとある日、痙攣を起こしてしまいました。とてもしんどそう、見ているだけ

でもつらく、翌日、病院へ連れて行きました。その時には、もうぐったりして、自分では歩けなくなっていました。病院でいろいろ調べてもらうと、糖尿病であることが分かりました。日頃、食べているものは、ドッグフードと野菜ぐらいで、獣医さんによると、原因は分からないということでした。犬も糖尿病になるのかという驚きと、「救急です。危ない状態でした。」と言われ、間に合っただけだったという安堵、とはいえ、目の前で元気をなくしているネオへの心配・・・いろいろな気持ちが入り混じりました。

病した。ネオと仲良しの息子も心配していましたので、「ネオちゃん、帰ってくるの？ よしよししてもいいの？」と喜びました。これから治療は続きますが、とにかく、家で一緒に過ごすことができず。長い間一緒にいて、少しずつ年を取ってきたのは感じるものの、元気でそばにいてくれることが本当にありがたいなあと思っていました。

改めて、「当たり前の日々」が、実は当たり前ではないという現実を感じました。当たり前前の尊さに感謝の気持ちを忘れず、お念仏をいただく日々を過ごしていきたいと思



歸命無量壽如来

南無不可思議光



新年あけましておめでとうございます  
今年もよろしくお願ひいたします

一乗山 専教寺  
門信徒総代・仏教婦人会役員 一同

## 専教寺からのお知らせ

仏教讃歌（毎月第2火曜日）  
※日時変更あり  
1月9日（火）午後1時30分～

## 永代経法要

4月28日（日）時刻未定  
決まり次第、お知らせいたします

